

FSDi

一般社団法人未来社会デザイン機構
Future Society Design institute

【未来社会デザインコンテスト2026】

志賀高原自然図鑑プロジェクト ー見つける、描く、灯す。一夜限りの自然展示ー

橋本明／名桜大学

発表日:2026年09月10日(木)

1	タイトル&ビジョン
2	きっかけ(原体験)&地域課題
3	企画の全貌と体験ストーリー
4	現地での気づき & ブラッシュアップ
5	持続可能な仕組み
6	安全面・環境面・リスク対策
7	リピート&関係人口化の仕掛け
8	地域と未来にもたらす変化

- ・橋本明/名桜大学

- ・タイトル：志賀高原自然図鑑プロジェクトー見つける、描く、灯す。一夜限りの自然展示ー

- ・参加者に与える体験

「写真を撮って終わる旅行」から、「自分の目で自然を観察し、自分だけの図鑑を作る旅行」へ
昼に自分で見つけた自然が、夜にはその場所を彩る作品になる。

- ・この企画が目指す未来

志賀高原を、「一度訪れて終わる観光地」から、何度も訪れ、自分自身の思い出を積み重ねていく場所へ
季節ごとに異なる自然との出会いが、次の訪問理由になる。

■ この企画を考えた原体験

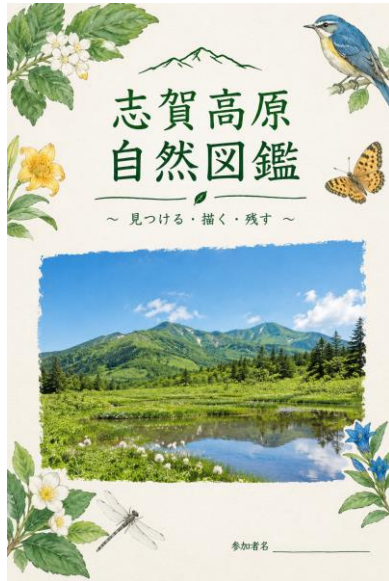
- ・ 旅行先で、景色を「描く」ことで気づいたこと。
- ・ スケッチをすると、光・葉の形・風景の細部まで自然を見るようになった。
- ・ 「撮る旅」から「観察して、描く旅」へ。

■ このエリアの「本当の課題」

- ・ 自然の魅力そのものが足りないのではなく、その自然を若者にとって「行きたい体験」に変化できていないこと。
 - ・ 志賀高原が目的地ではなく、通過する場所になりやすいこと
 - ・ 忙しい日常からリセットしたい、自分だけの体験・発見を、求めて若者は訪れる。
 - ・ 自然は豊かだが、通過型・消費型の観光になりやすい × 日常からリセットしたい、自分だけの発見をしたい
- 「自然を消費する」のではなく、「自然の中で自分だけの時間を過ごす」



- 志賀高原の夏を舞台に、森林ガイドと自然を観察・スケッチし、自分だけの「自然図鑑」をつくる1泊2日の体験型観光イベント。



昼

- 発見
ネイチャービンゴ
- 観察
スケッチ



夜

- 光の展示



- ターゲットは長野駅まで自力で来られる20代の学生・社会人で、1回あたり約20名を想定する。

長野駅



バス 1hour

9時

- ・長野駅集合
- ・参加者全員、バスで移動

朝



10時～11時

- ・志賀高原ビジターセンター
- ・志賀高原の暮らしや歴史を知る
- ・企画説明・配布

朝



11時～13時

- ・森の中や湿原
- ・ネイチャービンゴ
- ・探すことで、普段なら気づかない自然に気づく
- ・自然をただの景色ではなく、自分に関係するものとして感じる

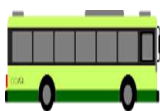
昼



13時～14時

- ・湿原のそばにあるベンチ(小雨の場合、屋根があるベンチ)
- ・昼ご飯
- ・地元食材を使った弁当を通してその土地の暮らしを知る。

夕



30min

夜



30min

夜



14時～16時

- ・ 森や湿原
- ・ 印象に残ったものをスケッチ
- ・ 細部まで気づくことができる。
- ・ 自分だけの視点が見つかる

17時～20時

- ・ 湯田中温泉エリア
- ・ 温泉や食事を楽しむ

21時～

- ・ 志賀高原エリアか、湯田中温泉エリア
- ・ 参加者がスケッチした葉などを光で投影
- ・ 幻想的な美しさに感動
- ・ 自分の発見が形になる喜び

- ・ 訪問: 8月20日, 21日
- ・ 長野駅→志賀高原山野駅(長電バス、約1時間)
- ・ 1日目

志賀高原エリア・ビジターセンターで、環境省の方やガイドの方などとお会いし、志賀高原の環境や歴史をお話してもらった。

車で、木戸池や渋峠、横手山に行きそこでしか見られない景色を見た。

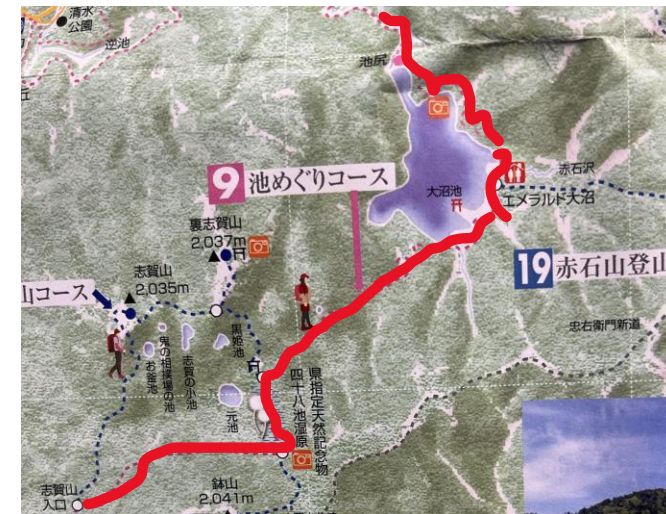
2307スカイカフェで、地元のタケノコを使った食材をいただいた。働いている方に、タケノコの保存方法などを教えてもらった。

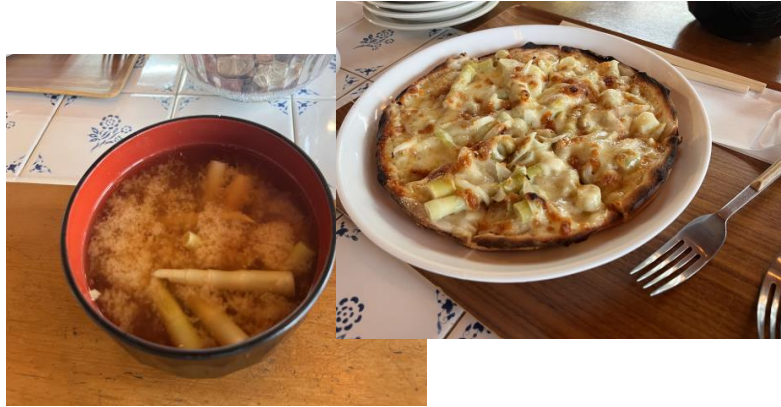


- ・ 2日目

四十八池湿原と大沼池に行き、そこで見られる花や苔を見ながら歩いた。

湯田中温泉エリアに行き、足湯などを楽しんだ。





2307スカイカフェ



四十八池湿原



大正池



四十八池湿原



四十八池湿原に行く道中



四十八池湿原



バスの少なさ



雨だと難しい



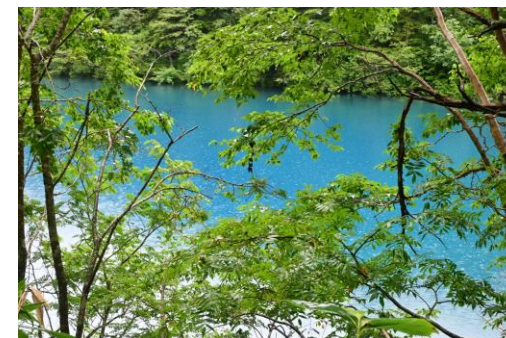
鳥などは見つけにくい



ベンチの数



通過？



誘引力

ネイチャービンゴ

到着後 → ビジターセンター
(水源、和合会)

ターゲット

若者 → 幅広い年代
(家族連れ、夫婦)

鳥

姿 → 音

スケッチ

鳥や昆虫 → 花や葉中心

鳥 → 場所・方向・どんな音、風景

参加者

- ・ 写真を見るだけではない、自分の手で自然を発見・記録する体験
- ・ 自分の作品が夜の光の展示の一部になる特別感
- ・ 「自然を消費する旅」ではなく、「自分だけの体験をつくる旅」ができる。

地域の事業者・店舗

- ・ 旅館への宿泊
- ・ 地元食材を使用した「森の図鑑弁当」
- ・ 森林ガイド・交通事業者との連携
- ・ 自然観光に興味はあるが、従来の観光だけでは訪問動機が弱かった層が新しく来る

運営(自分たち)

- ・ 既存の森林ガイド、旅館、交通機関を活用
- ・ 大規模な施設建設が不要
- ・ 季節ごとに内容を変えて継続開催できる
- ・ 旅行パッケージとして販売
- ・ 宿泊＋交通＋体験＋昼食をセット化
- ・ 季節ごとの再訪による継続的な参加を目指す

現場の負担感の少なさ

- ・ 新しい施設を建設せず、既存の遊歩道や旅館を活用
- ・ 森林ガイド、弁当店、旅館など既存事業者との連携
- ・ 大規模イベントではなく約20名の少人数制
- ・ プロジェクターなど持ち込み機材中心で実施

価格イメージ

- ・ 想定価格(1人あたり約25,000～30,000円)
- ・ 長野駅または目的地からの移動
- ・ 1泊宿泊
- ・ 昼食(森の図鑑弁当)
- ・ 森林ガイド
- ・ 自然図鑑キット
- ・ 夜の光の展示体験

ガイドさん

季節の自然を教えてください、ネイチャービンゴや散策ルートを監修。

地域の事業者

旅館・飲食店・生産者・交通事業者と連携し、地域全体で企画をつくる。

実施時期

まずは自然観察に適した夏季に実施。

運営体制

参加者約20名に対し、森林ガイドと運営スタッフで安全に実施。

地域の皆様へ

志賀高原の自然や魅力を教えてください、この地域ならではの体験を一緒につくりたい。

■ 最悪のケースへの対策

・小雨の場合

雨の日ならではの自然を安全な範囲で観察する「雨の自然図鑑」へ変更。

・屋外活動が困難な場合

森林ガイドとともに植物や自然資料を観察し、自分だけの自然図鑑をつくる室内プログラムへ変更。

■ 安全面・環境面への配慮

・夜間の安全確保

光の展示では、危険な場所への立ち入りを避け、既存の遊歩道や施設を使用。スタッフ・ガイドが同行し、ライトを配布する。

・自然環境への配慮

植物や昆虫の採取は行わず、既存の遊歩道のみを利用する。

・光の展示への配慮

生態系への影響を考慮し、投影場所・時間・光量を調整する。

・事故・緊急時への対応

事前に緊急連絡体制を整え、事故や体調不良が発生した場合に迅速に対応する。

① 季節ごとに変わる自然

訪れる季節によって異なる自然と出会い、新しい図鑑をつくる。

② 図鑑が再訪のきっかけになる

「次は秋のページを増やしたい」と、図鑑を完成させるために再び訪れたくなる。

③ 旅の後もつながる

SNSや季節ごとの情報発信を通して、志賀高原との関係を継続する。

④ 観光客から関係人口へ

一度きりの旅行者ではなく、継続的に志賀高原に関心を持つ人を増やす。

春



夏



秋



■ この企画で、対象エリアの未来はどう変わるか

「通り過ぎる観光地」から、「何度も訪れ、自分だけの思い出を積み重ねる場所」へ。

■ 最後に伝えたいこと

- 地域の皆様とともに、志賀高原の自然の魅力を最大限伝えていきたいです。
- 現地を訪れて感じたのは、志賀高原にはすでに素晴らしい自然があるということです。
必要なのは、新しいものをつくるのではなく、その自然に「気づききっかけ」をつくることだと考えました。